

学校法人拓殖大学
拓殖大学北海道短期大学
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日
財団法人短期大学基準協会

拓殖大学北海道短期大学の概要

設置者	学校法人 拓殖大学
理事長名	藤渡 辰信
学長名	草原 克豪
A L O	橋本 信
開設年月日	昭和41年4月1日
所在地	北海道深川市メム4558番地1

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
環境農学科		70
経営経済科		150
保育科		60
	合計	280

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

拓殖大学北海道短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 19 年 6 月 27 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学の設置法人は明治 33 年創設の沿革を有する東京の拓殖大学であり、当該短期大学は昭和 41 年北海道深川市に創設された。約 27 万 5 千平方メートルの広大な敷地に経営経済科、環境農学科、保育科の 3 学科を有し、北海道ならではのスケールの大きさを誇る。「開拓者精神」を継承しつつ、「地域社会に貢献し、広い教養と実践的な知識・技術を兼ね備えた、人間性豊かな人材を育成すること」という建学の精神や教育理念は確立しており、共通理解のための取り組みもなされている。

北海道の北空知地域で唯一の高等教育機関として、行政や地元との連帯を強め、3 学科とも意欲を持ったユニークな教育内容を工夫して実践している。また座学偏重ではなく演習、実習、研修など現場での教育が重視され、実社会との協調、即戦力を養う教育課程が教育効果をあげるよう体系的に編成されている。さらに、多様な学生のニーズにこたえられるよう、多くの資格取得が可能である。また、保育科中心ではあるが、他学科学生も参加する「総合芸術（ミュージカル活動）」を毎年公演することは、座学では体験できない優れた取り組みとなっている。

教員組織、校地・校舎、運動場、体育館、休憩所といった教育環境は整備され、教育研究用の機器備品、図書館などの整備も適切である。また、農場を持っている特色を生かした教育活動が行われている。

単位認定については、全体として適切に実施されており、教育目標はおおむね達成できているといえる。学生の満足度調査も実施されており、日常的に教員と学生のコミュニケーションが密に行われている。

教職員による学生支援体制は、ゼミ担当教員が学生の学習上の悩みだけではなく、個々の学生生活全般の諸問題に対応するなど整っており、その機能を十分に発揮している。また併設四年制大学を始めとする四年制大学への編入支援体制が充実しており、編入のための必要科目や「特別専攻フィールド」が設定されている。

研究室・研究費・研究紀要などについては整備され、研究推進への裏付けがなされている。また「教育を第一義とする研究活動」、すなわち教育のための研究活動という特色があ

り、環境農学科の農場を活用した実習・実験と連動した研究、「総合芸術（ミュージカル活動）」のような実践指導という形の教育・研究活動は評価できる。

社会的活動としては、「農業セミナー」、「保育セミナー」といった公開講座が行われているほか、上述のミュージカル公演は市民からも高い評価を得ている。

理事会、評議員会は寄附行為の規定に基づき適切に運営されており、監事も適切に機能している。学長は総合委員会及び教授会の議長としてリーダーシップを発揮するとともに、法人理事として理事会との緊密な連携を図っており、円滑な学内運営が行われている。

毎年度の事業計画、予算は適切に決定され、財務諸規程に基づき適切に執行されている。学校法人全体の消費支出比率や、短期大学部門の教育研究経費比率も、適当な水準にある。施設設備の管理のための固定資産台帳、図書台帳、備品台帳や固定資産管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程などの整備もなされており、適切である。

改革・改善のための体制については、総合委員会の下に第三者評価委員会を設置していることに加え、平成19年に「拓殖大学北海道短期大学将来構想検討委員会」を発足させ、未来ビジョンを策定する上で、自己点検・評価の成果を最大限活用するよう努力している。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

（1）特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 環境農学科では農業生産者の高齢化、後継者不足に対して農業の活性化のための「新規就農コース」を創設し即戦力の実践教育を行い、「農場公開デー」や「農業セミナー」など地元と密着したプログラムを実施し効果をあげている。
- 経営経済科では独自の「特別専攻フィールド」を設け、北海道観光に関する科目を用意している。
- 保育科及び全学をあげての「総合芸術（ミュージカル活動）」は創造的総合学習としての性格を持ち効果的である。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 保育科や経営経済科においても栽培実習や農場見学を実施するなど、農場を持つ特色を生かした教育活動が全学的に行われている。
- 全ての専任教員が授業を公開し、授業改革を進める体制が整備されている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 全学的に配置されている1・2年目の必修科目のゼミナールの担当教員が、学生の学習面だけでなく生活面での諸問題の相談相手として大きな役割を果たしている。

評価領域Ⅵ 研究

- 環境農学科において北海道初の黒米もち品種「きたのむらさき」及び黒米うるち品種「芽生さくらむらさき」が育成されるなど、活発な研究活動が行われている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域に公開する「農業セミナー」や「保育セミナー」、全学科あがての「総合芸術（ミュージカル活動）」は長年にわたって実施されており、学生の教育研究活動に寄与するとともに、地域にも定着し市民から高い評価を得ている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 学長は、総合委員会及び教授会の議長として多面にわたるリーダーシップを発揮するとともに法人理事として理事会との緊密な連携を図っており、円滑な学内運営が行われている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 環境農学科の「新規就農コース」において、退学者の割合が高くなっているためその有効な対策を講じることが望まれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 東京の併設四年制大学との連携強化を中心に、留学生の受け入れの検討などを通じて、入学者を更に増やす努力が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 余裕資金は十分あるものの、短期大学部門の収支の構造にやや問題がみられるので改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学を設置する学校法人拓殖大学は「台湾協会学校」の名称で、アジア各地で活躍する人材の養成を目的として明治33年に創設され、初代校長は桂太郎である。

当該短期大学は、広大な敷地に経営経済科、環境農学科、保育科の3学科を有し、北海道ならではのスケールの大きさを誇り、開拓者精神を継承しつつ、「地域社会に貢献し、広い教養と実践的な知識・技術を兼ね備えた、人間性豊かな人材を育成する」という建学の精神や教育理念が確立されており、その周知も図られている。3学科ともに、その具現化に努力している姿勢が看取される。また、教育目的・教育目標は、学生の動向、時代や地域のニーズを踏まえつつ点検され、適当な審議を経て見直しが行われている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

3学科とも座学偏重ではなく演習、実習、研修など現場での教育が重視されている。実社会との協調、即戦力を養う教育課程が、教育効果をあげるよう体系的に編成されている。また、多様な学生のニーズにこたえられるような多くの資格取得が可能である。授業内容、成績評価方法などについては、講義要項、シラバスなどで明示されている。授業改善のための活動についても、「学生アンケート」が行われ、その結果と今後の改善方針が記載された「科目別整理票」もまとめられている。それらを受けて、教員相互の授業参観などのファカルティ・ディベロップメント(FD)活動が行われている。

また、保育科中心ではあるが、他学科学生も参加する「総合芸術(ミュージカル活動)」の毎年公演は、「感動体験こそ教育の原点」という保育科の基本理念の具現化である。既存の殻を打ち破り、座学では体験できない学生の結束力、協調性、積極性、自信、感動の

体験がみてとれる。観衆・地元と一体になった人間性の和、まさに、教育において現在欠落している部分の一大教育効果をあげている成果は特筆に値する。

環境農学科は、農業の新たな担い手育成を目的とした「新規就農コース」を設けており、平成16年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に採択されるなど、地域の活性化と連動していることは高く評価できる。

経営経済科は、併設四年制大学の3年次編入希望者が大部分を占めているが、独自性を出した「特別専攻フィールド」には観光分野の科目を設け、北海道観光をマスターするような教育課程も用意している点は評価できる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員数、校地・校舎は短期大学設置基準を満たしている。運動場、体育館、休憩所といった教育環境も整備され、教育研究用の機器備品、図書館などの整備も適切である。パソコン教室を開放し、パソコンによるe-learningが充実しており学生の予習、復習する環境が整備されているほか、図書館の蔵書も充実しており、その利用は活発でしかも利用促進のための努力が払われている。また、保育科や経営経済科においても栽培実習や農場見学を実施するなど、農場を持っている特色を生かした教育活動が全学的に行われている。教育の実施体制は適切であり、教育の充実を目指して懸命に取り組もうとしている姿は評価に値する。

専任教員の年齢構成はバランスが取れており、教員の採用や昇任も適切な手続きにより行われている。教員の授業負担が多いことが気になるが、教育への熱意の表れとしてとらえることもできる。授業負担の多い教員には、賞与で差をつけることで学内合意もできており、その上で実施していることは評価できる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定については、全体的には適切に実施されており、教育目標はおおむね達成できていると考えられる。しかし、一部の科目の内容や評価については、単位取得率の低い科目や評価の偏りといった問題がみられるので、内容のレベルが高いのか、評価基準に問題があるのか検討し、改善を図る必要がある。

学生の満足度調査は実施されており、日常的に教員と学生の接触が密接に行われている。退学、休学については、おおむね妥当な範囲である。

評価領域Ⅴ 学生支援

ウェブサイトが建学の精神、教育目的・教育目標などの大学の姿勢をわかりやすく明示しているだけでなく、受験生、入学予定者、保護者にとって知りたい情報を容易に入手できるよう構築されている。

教職員による学生支援体制は整っていて、その機能を発揮している。具体的には、1・2年目の必修科目であるゼミの担当教員は、学生指導体制において大きな役割を担っており、

学生の学習上の悩みだけではなく個々の学生生活全般の諸問題に対応している。ピアノや語学では、習熟度別の指導を行っている一方、読み書きなどの基礎学力が不足する学生や情報教育・ピアノ実技などの授業についていけない学生に各教科及びゼミ担当教員が時間外で対応している。また、1・2年次の留年生に対して、教務委員会が別途プログラムを組んで履修指導をしている。

併設四年制大学を始めとする四年制大学への編入支援体制は充実しており、編入のための必要科目や「特別専攻フィールド」をきちんと用意している。

奨学金制度は、日本学生支援機構奨学生のほかに、当該短期大学独自の奨学生制度があり、1・2年生合わせて98人の学生が奨学生となっている。また、独自の表彰制度も学生支援の一環として設けられている。平成19年度実績で文化精励賞（3団体）、スポーツ精励賞（1団体、1個人）、特別精励賞（3個人）が贈られた。

評価領域VI 研究

研究室・研究費・研究紀要などが整備され、研究推進への裏付けがなされている。教員の研究活動について、個人研究や共同研究はウェブサイトに掲載されていて一定程度の成果をあげている。

また、採択はないものの科学研究費助成金の申請が過去3ヶ年間に3件ある。その他の外部研究資金調達への2件の申請は採択されており、今後の意欲的・積極的な取り組みが期待される。

「教育を第一義とする研究活動」、すなわち教育のための研究活動という特色があり、環境農学科の農場を活用した実習・実験と連動した研究（北海道初の黒米もち品種や黒米うるち品種の開発研究など）、保育科中心に他学科の学生も参加する「総合芸術（ミュージカル活動）」のような実践指導という形の教育研究活動は高く評価できる。

評価領域VII 社会的活動

社会的活動の内容は、短期大学として高いレベルにあるものとする。環境農学科においては、社会人を受け入れている。公開講座としては、開学以来、「農業セミナー」を実施しており、また「保育セミナー」も実施している。教員の地域社会への貢献も積極的に行われている。

学生の社会的活動については、平成19年度に24回目の「総合芸術（ミュージカル活動）」が公演され、多くの学生が参加した。このミュージカルは、市民からも高い評価を得ている。また、写真部の学生は、地域の人と一緒に地域に開かれた活動を行っている。このように、地域とともに歩む姿勢を持って地域社会への貢献を積極的に進めていることは評価できる。

国際交流・協力についても、学生の語学留学、海外農業研修を実施しているほか、中華人民共和国からの留学生10人を受け入れている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会は寄附行為の規定に基づき適切に運営され、開催回数、出席率という点からも問題ない。また、理事構成における経営・業務担当と教学担当のバランス、内部理事と外部理事という点も問題ない。監事の業務執行、評議員会も寄附行為に基づき執行されており、適切に機能している。

学長は、総合委員会及び教授会の議長として適切なリーダーシップを発揮するとともに、法人理事として理事会との緊密な連携を図っており、円滑な学内運営が行われている。総合委員会、教務委員会、学生委員会などの 11 の委員会も、それぞれ適切に運営されている。

事務部門の規模は適切であり、また、事務職員の任用も採用規程などが整備されており、問題はない。このほか、就業規則、給与規程なども整備され、それらに基づいて適切に処理されている。

評価領域Ⅸ 財務

学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画、予算決定に至る過程はシステムとしてしっかりできており、当該短期大学の意向が十分反映される形となっている。

また、決定された予算は当該年度の注意事項を添付し、各セクションに配布され、財務諸規程に基づき適切に執行されている。財務目録、貸借対照表、資金収支及び消費収支計算書、事業報告書、監査報告書は、当該短期大学内で閲覧に供されている。

短期大学部門の消費支出比率にはやや問題がみられるが、学校法人全体の消費支出比率、短期大学部門の教育研究経費比率及び学生生徒等納付金還元率の両指標とも、短期大学として望ましい水準をクリアしている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

平成 17 年度より総合委員会の下に第三者評価委員会を設置し、毎年、全学をあげて自己点検・評価を行ってきた。また、平成 19 年に将来構想検討委員会を発足させ、将来のビジョンを策定する上で、自己点検・評価の成果を最大限活用するよう努力し、実践しつつある。3 学科ともに他の短期大学にはみられないユニークな教育プログラムを展開しており、常に全学をあげた改善を視座において活動している点は評価できる。

外部評価は行っていないが、同一法人の東京の拓殖大学との交流もあり、各連絡会や実践の場で当該短期大学以外の意見も聴取できる。また、当該短期大学の学長が併設四年制大学の副学長であることも踏まえれば、相互評価的要素も取り入れられていると考えられる。

今後は、学生募集につながる更なる改革・改善を期待したい。北海道においても札幌や旭川に重点を置き地元周辺の実績に加えていくことや、また東京の併設四年制大学の志願者との連携、例えば 1 年間でも雄大な北海道で学ぶ希望の学生を受け入れることなどを視野に入れた検討も望まれる。